

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成26年10月9日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 文学研究科・思想文化学専攻

職 名 教授

氏 名 水 谷 雅 彦

助成の種類	平成26年度・研究成果公開支援・国際会議開催助成		
事業内容	京都・東アジア現代哲学国際会議2014 The 2nd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia		
開催期間	平成26年 8月28日 ～ 平成26年 8月29日		
開催場所	京都大学文学部校舎		
参加者	総数 135名	内 訳 日本:75名、台湾27名、韓国19名、中国3名、シンガポール3名、イギリス3名、香港2名、アメリカ1名、オーストラリア1名、イタリア1名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(抄録集(英語))		
会計報告	事業に要した経費総額	4,605,640 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都大学 経費支援、京都大学アジア研究教育ユニット 寄付金、公益財団法人交流協会 後援助成	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費交通費	3,346,160	887,200
	会場・会議費	112,800	112,800
	印刷製本費	260,000	
	通信運搬費	45,000	
謝金	540,000		
消耗品	101,680		
レセプション・エクスクーション費	200,000		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

成果の概要

京都大学大学院文学研究科・思想文化学専攻
教授 水谷雅彦

名称：京都・東アジア現代哲学国際会議 2014

The 2nd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia

開催場所：京都大学文学部校舎、総合研究 3 号館

開催期間：平成 26 年 8 月 28 日（木）～ 平成 26 年 8 月 29 日（金）

主催：京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター

共催：京都大学アジア研究教育ユニット

後援助成：京都大学、公益財団法人京都大学教育研究振興財団、公益財団法人交流協会

参加者：研究者約 135 名

（日本、台湾、韓国、中国、シンガポール、イギリス、香港、アメリカ、
オーストラリア、イタリア）

招待講演者：In-Rae Cho Seoul National University, Korea 教授

タイトル：“Toward a Coevolutionary Model of Scientific Change”

Wan-Chuan Fang Soochow University, Taipei 教授

タイトル：“Choice and the Analects—On Fingarette’s Views”

Leon Horsten University of Bristol, UK 教授

タイトル：“Absolute Infinity and Reflection Principles”

Saranindranath Tagore National University of Singapore,
Singapore 教授

タイトル：“Modernity and Cosmopolitanism”

一般発表：92 演題

会議概要：

これまで個別の研究者交流は実施されてきたものの、東アジア地域の現代哲学・倫理学の研究者が一堂に会する機会はなかった。盛んな個別交流の積み重ねを経て、2012 年に第 1 回目となる東アジア現代哲学国際会議が台湾・中央研究院にて開催され、70 名近くの発表者を得て、盛会の裡に終了するとともに、第 2 回目の東アジア現代哲学国際会議を京都にて開催することが決定された。

本国際会議は、東アジアを拠点として活動する哲学および倫理学の研究者が一堂に会し、現代哲学に関する課題の共有と分析を行うため、開催する。

また、同じような文化的背景を持つ東アジア地域にて、哲学および倫理学の最新の知見を互いに発表、交換するとともに、地域において共有される現代哲学に関する課題を見極める機会とする。本分野の研究の発展に資するのみならず、地域内の研究者ネットワークを活性化し、共同して課題に取り組み契機とするとともに、東アジア地域の課題解決に哲学・倫理学研究の観点から貢献する。

会議成果及び自己評価：

本会議には当初100名の発表申し込み者があり、厳密な審査を経て、最終的には発表者90人以上、出席者135名が参加する大規模な学会となった。発表人数の内訳は、台湾と日本の研究者がそれぞれ20人台であり、その他には東アジア諸国・諸地域はもとより、広くアジア各国さらには欧米からの参加者も多数見られた。結果として、参加者の人数、参加地域の広がり、いずれの面から見ても、第一回の会議をはるかに上回る盛況裏のうちに大会を終えることができた。また会議における議論の活発さ、その質の高さに加え、大会運営のスムーズさも水際立ったものであり、多くの参加者から圧倒的とも言える好評を得た。この会議の成功を受け、第三回の会議を二年後にソウルで開催することが本決まりとなった。その意味で、今後の日台間の学術交流のみならず、日台両国を軸とした東アジア、ないしはアジア全域における学術交流を一層、加速するとともに、それを継続的に押し進めることができたのである。さらに、応用哲学会（日本）の全面的な協力を得て、そのオンライン・ジャーナル上で、本会議で発表された研究発表を公表する英文特集号を公刊することも決定した。この特集号公刊の暁には、本学会の成果が世界の学界に向け発信されることになり、この地域からの学術発信に大いに貢献することが期待される。

事業日程：

平成26年8月27日（水）

参加者が各地より京都へ移動。

主な宿泊先：京都ロイヤルホテル&スパ、芝蘭会館別館、清風会館

平成26年8月28日（木）

京都・東アジア現代哲学国際会議2014 開催

会場：京都大学文学部校舎

ウェルカムパーティー 開催

会場：カンフォーラ（京都大学構内）

平成26年8月29日（金）

京都・東アジア現代哲学国際会議2014 開催

会場：京都大学文学部校舎

平成26年8月30日（土）

参加者帰国

以上